

事業名 ^{の やまきた ろくどうやま} 野山北・六道山公園整備事業
(里山体験施設整備工事)

〔里山の景観と多様な自然環境の復元を行い、多くの市民と育む公園の整備事業〕

受賞機関 東京都西部公園緑地事務所

工事課

事業実施期間 平成9年10月29日～平成12年5月17日

事業費 658百万円

事業等の特徴

里山ボランティアや地元農家、自然保護団体等様々な立場の人々が公園の管理・運営のボランティア活動等に携わっており、これを通じて幅広い公園利用活動が行われている。管理運営協議会の主催行事として、観察会などが開催され、また「里山民家」は、利用者に人気が高い。

利用者からは、「里山の暮らしが実感できた」「昔の知恵を知った」など公園の施設を評価する意見や、「親切な説明がよかった」など公園の管理に対する意見もある。今後も、積極的な住民参加等により「市民とともに創り、育む公園」づくりが実践されていくことに大きな期待が寄せられている。

事業の概要と利用者等の評価

(1) 野山北・六道山公園の概要

計画決定面積：260ha

現在開園面積：122.4ha

敷地の特徴：東西約3km

南北約0.8km、標高差約40mの丘陵地に20を越す谷戸があり、湧水ではトウキョウサンショウウオやホタルなどがみられる。丘陵地のほとんどが雑木林で被われ、雑木林に特有の生き物が生息している。

(2) 里山体験施設整備工事の概要

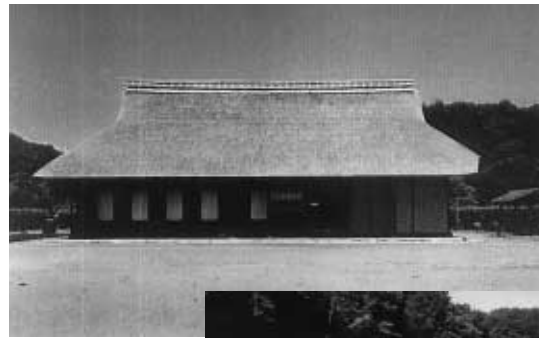
目的：本工事エリアは公園区域内で最も大きな谷戸（約30ha）にあり、生態系の保全とともに里山の文化や環境の学習、里山における雑木林管理や農作業等の体験を行う拠点施設として整備した。

工事内容：廃棄された建設残土の搬出処理、里山民家（茅葺母屋・蔵他）の建築、田んぼ、池、水路、湿地等の復元、園路（土舗装）・広場等の利用施設整備、雑木林整備

(3) 基本計画における野山北・六道山公園整備事業の特徴

基本計画は平成7年に策定され、「雑木林を核とした緑の保全と未来への継承」「里山の文化や自然とのふれあい」「将来に向けて育まれる公園づくり」の3つが基本理念となっている。

(4) 設計及び整備における里山体験施設整備の特徴



里山民家（母屋）



四種類の古代米、もち米、うるち米を作っている、カカシも市民の手作り

貴重な自然環境についての情報を交換し、その保全策について検討するとともに、整備後の公園を地元の方々と共に育てていくため自然保護団体との協議、地元住民への説明会を実施している。また、切り取り斜面地などを以前の景観と自然に復元することを目的とし、設計と工事を行った。

- (5) 「里山の管理運営を考える懇談会」の開催、「管理運営協議会」の設置と「里山ボランティア」の立ち上げ
- (6) 最近行われた主な行事... 田植え ふれあい餅つき大会 篠笛コンサート 自然観察会（瑞穂町、武蔵村山市で各一回） 繭玉づくり
- (7) 新聞等広報記事... 朝日新聞 アサヒタウンズ 朝日ジャーナル 立川テレビ 武蔵村山市ビデオレター

審査委員会委員の意見等

- ・管理・運営のボランティアによる「育む公園」づくりに対する取り組みの意欲がみえる。
- ・リサイクルの試み、ボランティアとの連携がよい。
- ・地元への説明会の開催だけでなく、ボランティアの参加、普及啓発など、多角的で盛りだくさんの活動内容が力強さを感じさせる。
- ・利用者を含め地元の住民の積極的参加意識が感じられる。（時間の）経年価値のある風景づくりとして、今後「村並づくり」としてこれが契機になってほしい。
- ・建設残土、宅造跡地に里山復元を図った努力を評価。仕上がりが、利用状況も優れている。
- ・各種団体等により構成されている懇談会により施設の利用・管理について話し合いが行われ、一般市民を対象にしたボランティア組織の立ち上げにつなげたことを評価する。また、基本理念についても共感できることや、残土を撤去して田んぼを復元し昔の景観を蘇らせたことは非常によいことである。